令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 大庭小学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○経験をもとに考える問題はできていた。 ○絵からの情報をもとにして解く問題に強い。	・こども達が好きな作業をする際に説明文を を読んで進める場面を意図的に設定する。 ・ペア活動やグループ活動など協働的な学びの機会を増やすことで学習のリーダーを育て、学級全体の学習意欲を高める。(中間層を引き上げる)
	課題	●問題の全体を把握して問題を解くことが苦手。 ●読む力が必要。資料が多く、分析したり内容を理解したりするのに時間がかかって、解くことができない。	
算数	成果	○多様な問題がある中で、最後まで粘り強く取り組んでいた。	・基礎基本の定着を図るために公式等は学習の足跡として、常に掲示しておく。 ・こどもや教員が親しみやすく、必要感のある内容の文章問題を作り、文章問題にふれる機会を増やす。
	課題	●公式を覚えていない。 ●情報量が少ないと取り組めるが情報が多くなると難しい。	

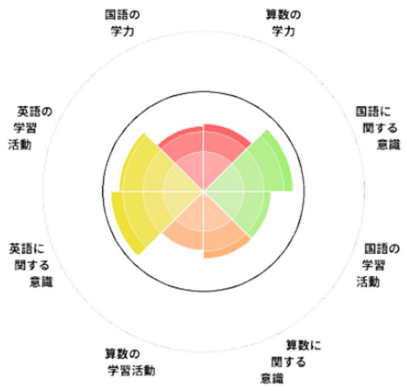
(2)質問紙調査から見られた傾向

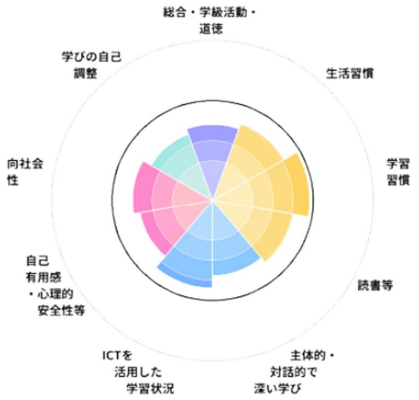
		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○(11)「人が困っているときは進んで助けていますか」、1当てはまるの回答が全国・県平均を上回っている。 ○(35)ICT機器の使用について全国・県平均を大きく上回っている。	・教職員がポジティブな声かけ(ペップトーク)を意識することで、こどもや教職員が自己肯定感を持ち、ありのままの自分が認められ、自分や他者を大切にする態度を育てる。
	課題	●(8)「自分にはよいところがある」肯定的回答が全国・県平均を下回っており、自己肯定感が低い傾向にある。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	①国語で培った「選ぶ学び」を他教科へ広げ、学校全体で『ルーブリック』を学習のツールとして定着させる。 ②『ルーブリック』の項目を一部空欄にして、児童自身が目標や学習方法を立案したり、「どのような表現方法(図解、要約、意見文など)で伝えるか」というアウトプットの選択肢を設定したりする。 ③計算オリンピック・漢字オリンピックについて、内容・評価を検討したり、朝学習との関連付けをしたりする。 ④朝学習や図書館での読書の時間を充実させ、「読む」習慣を身に着ける。 ⑤これまでの「かんなび学園」や他校の実践をもとに、大庭小の家庭学習の手引き(自主学習の方法)を作成する。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)





【受検者数】

78 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

